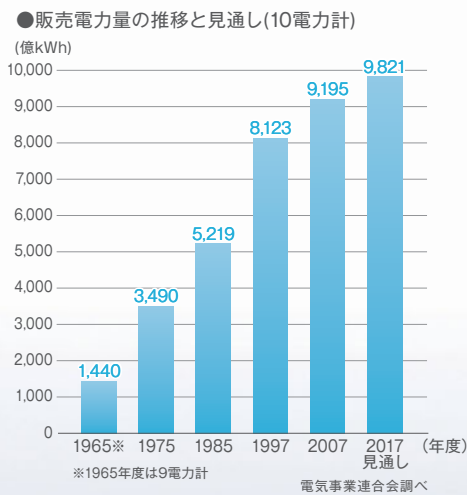


さまざまな電源を最良の組合せで利用する。
それがベストミックスの考え方です。

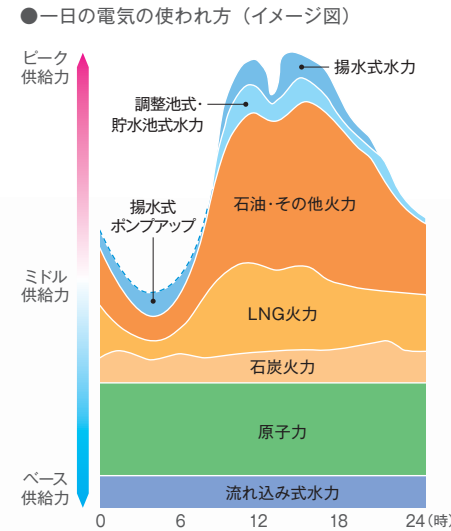
増加傾向の電力需要に向けて、エネルギーセキュリティが大切です。

日本の電気の消費量は年々増加しており、今後も伸び続ける見通しです。エネルギー自給率が4%しかなく、エネルギー資源を海外からの輸入に依存する日本にとって、エネルギーセキュリティ(安定的なエネルギー源の確保)は、ますます大切になっています。



各電源の最適な組合せ「ベストミックス」をすすめています。

関西電力では政治や経済、国際情勢に影響されない安定したエネルギー源の確保をめざして、特定の資源に偏ることのない、多様なエネルギー源の組合せを推進しています。それはエネルギーセキュリティだけでなく、環境負荷や経済性の面など総合的に検討した最適な組合せをめざすものです。これを電源の「ベストミックス」と呼んでいます。関西電力のベストミックスは原子力発電をベース電源とし、ピーク時の電力需要には火力発電などで対応する構成になっています。



ウラン鉱山の開発等に参画し、原子燃料の長期安定確保に取り組んでいます。

原子力発電の燃料には天然ウランを濃縮したウラン燃料を使用します。昨今、新興国を中心としたエネルギー需要の増加による化石燃料価格の高騰や、地球温暖化問題を背景として、世界的に原子力発電の価値が見直されており、ウラン燃料の争奪戦が始まっています。こうした中、長期的なウラン資源確保のため、関西電力は2006年、カザフスタン共和国のウラン鉱山開発プロジェクトへ参画しました。さらに、2008年から2009年にかけて、関西電力が出資する日豪ウラン資源開発(株)を通じ、オース

安定した電力供給のために、
安定したエネルギー資源の確保に取り組んでいます。

トラリアにおいてウラン探査プロジェクトや事業化調査に参画するなど、将来にわたる原子燃料の安定調達に努めています。



●オーストラリアのウラン鉱山開発現場



●ブルート建設現場

LNGプロジェクトへの参画をはじめ、火力燃料調達の一貫体制確立に努めています。

火力発電の主な燃料であるLNG(液化天然ガス)は、供給の安定性や環境性にすぐれています。関西電力は、オーストラリアのブルートLNGプロジェクトに参画し、長期LNG購入に関する契約を締結しました。2010年以降の主要LNG調達源に位置づけるとともに、プロジェクトから得られる事業収益を新たな収益源の一つとして考えています。また、このプロジェクトから調達するLNG輸送のため、関西電力初の自社船「LNG EBISU」を保有しました。さらに、2010年の舞鶴発電所2号機の運転開始により石炭使用量が増加することから、石炭輸送船3隻の導入をすすめています。こうした生産から受け入れまでの一貫体制を確立することで、火力燃料の長期安定確保に努めています。

